

# 令和元年度奈良県環境審議会水質部会（第1回）議事録（案）

日時 令和2年1月16日（木）

15:00～15:45

場所 奈良県文化会館 第2会議室

## 1. 出席委員

藤井委員（部会長）、惣田委員、中野委員、井上委員（代理 由井委員）

## 2. 議 事

- (1) 令和2年度公共用水域及び地下水の水質測定計画について（諮問）
- (2) その他

## 3. 質疑概要

（惣田委員）

資料3 公共用水域の生活環境項目の調査の採水は、一日何回か採水し、混合してから試料としているのか？

（事務局）

一日一回の採水としている。

（藤井部会長）

大和川が100%環境基準達成状況になったのは、「きれいに暮らす奈良県スタイル」で、奈良県が対策をして水質が良くなったのか、それとも、たまたまなのか。

（事務局）

「きれいに暮らす奈良県スタイル」の3本柱の一つに「大和川のきれい化」をあげている。環境政策課だけではなく、下水道課など他の部署でも取り組んでいる。大和川本川は環境基準達成率100%であるが、流入する支川ではまだBOD 5mg/Lを超える河川がある。環境政策課では、昨年からは県、市町村、地元自治会、NPO等で構成する重点対策支川部会をつくり、地元自治会に入り

込み、単独浄化槽の合併浄化槽への転換や、点検・清掃の励行、下水道への接続依頼などの取組を始めているところ。昨年の改善の一番の要因は気象ではないかと考えている。降雨量が多い時期やタイミングがあったのではないかとと思われる。全体として県、市町村等全体で、大和川をきれいにしようと取組んでいるところ。

(中野委員)

下水道の整備が進みましたね。

(事務局)

下水道整備率は上がっております。

(惣田委員)

資料4 令和元年度からの変更点の2頁で、ほとんどのところでは測定回数を減らしているが、要監視項目の欄の高倉橋では全マンガンが指針値の2分の1以上が検出されたため、測定回数を年4回増加させている。マンガンは、自然界にはたくさんあるので、これは自然由来か、人為的なものなのか。

(事務局)

全マンガンの指針値は0.20 mg/Lで、H29年度の検出値は0.10 mg/L、それ以前は0.08 mg/L程度であったが、H30年度に0.11 mg/L検出され、国土交通省の測定回数の見直し基準により測定回数を増やすことになった。元々検出された地点であり自然由来と考えられる。急に検出値が高くなったわけではない。

(藤井部会長)

地下水の硝酸性窒素について、基準超過地点は毎年高い値で、2倍から4倍である。これは田んぼや畑、いろいろなものを含めて仕方ないと、だからどうしようもないということになるのだと思うがいかがか。

(事務局)

状況把握のため、継続監視をしている。

(藤井部会長)

超過している井戸については、飲用指導等はしているのか

(事務局)

環境基準超過井戸の所有者に対しては説明し、念のため飲用しないよう指導している。ほとんどの井戸は農業用等で飲用していない。

(中野委員)

今は飲用に使用しているところはないのか。

(事務局)

常時監視井戸が廃止された場合等は、替わりの井戸を探すのが困難な状態である。水道料金を払っていない家があるということで、井戸があると分かったところもある。井戸の把握自体が難しい。

(藤井部会長)

他に意見質問等がないようですので、事務局で取りまとめた計画で決定してよろしいか。

－ 委員了承 －

(藤井部会長)

この計画を部会として了承する旨を環境審議会の委員の皆様へ報告することとする。